

自己点検・自己評価結果報告書

2021年3月

ベルランド看護助産大学校
学校評価委員会

はじめに

質の高い看護師を養成するには、学校としての教育水準の維持・向上と、創意工夫のある教育の追及を図ることが求められる。学校は学校の諸機能を定期的に確認し、「品質保証改善」のしくみとして学校評価が機能的に位置づけ運用されることが求められる。

専修学校の学校評価については、学校評価ガイドライン等の提示により80%以上の学校で行われている。

本校では、2014年、2016年に自己評価を実施、2015年には学校関係者評価委員会を立ち上げ、学校の評価委員会による学校評価、その結果に対しての学校関係者委員会からの助言提言の実施を開始し、学校評価のPDCAサイクルは徐々に整ってきている。

今回はまず、2016年、2018年度に実施した項目と同様（文部科学省・専修学校ガイドライン）を用いて全教職員を対象に自己点検・自己評価を実施した。その変化、学科間の差等から取り組みと課題を分析し、報告する。

対象：教職員36名（学校長・副学校長除く）

（事務職員5名・看護学科・高度専門看護学科25名・助産学科6名）

調査期間：2021年1月16日～1月22日

調査方法：教職員ネットワークを用い、データを各自入力後個人が特定できないように保存。専任教員が事務職員の属性と常勤と非常勤の区別を記載し、個人を特定しない事を条件とし依頼

評価尺度：4＝適切 3＝やや適切 2＝やや不適切 1＝不適切 わからないの4尺法

*評価2および1とした項目は、その理由と改善の提案を自由記載

有効回答数：事務職員5名（100%）助産学科専任教員6名（100%）

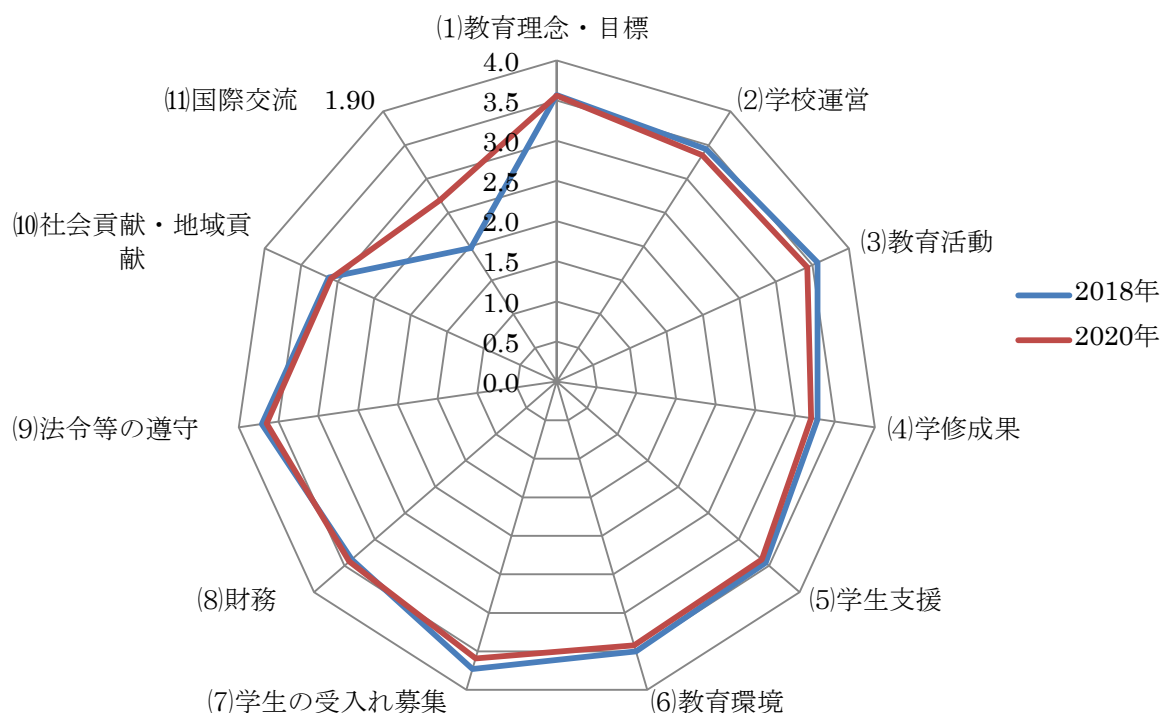
看護学科・高度専門看護学科専任教員25名（100%）

全体結果

大項目別評価

	2016年度調査	2018年度調査	2020年度調査	2018年度比
1. 教育理念・目標	3.49	3.57	3.56	99.72%
2. 学校運営	3.29	3.44	3.35	97.38%
3. 教育活動	3.43	3.57	3.43	96.08%
4. 学修成果	3.26	3.28	3.20	97.56%
5. 学生支援	3.19	3.44	3.38	98.26%
6. 教育環境	3.26	3.50	3.42	97.71%
7. 学生の受け入れ募集	3.57	3.73	3.59	96.25%
8. 財務	3.19	3.38	3.42	101.18%
9. 法令順守	3.42	3.71	3.65	98.38%
10. 社会貢献・地域貢献	2.91	3.12	3.09	99.04%
11. 国際交流		1.98	2.69	135.86%
全項目平均		3.34	3.34	100%

2018年度と2020年度の自己点検・自己評価の比較



全体結果：全体の平均値は、2018年度 3.34、2020年度 3.34 と同値である。

<大項目別の比較>

評価が上昇した大項目

- ① 「11. 国際交流」は前回の1.98から2.69へ（前回対比135%）
- ② 「8. 財務」は前回の3.38から3.42へ（前回対比101.18%）

評価が低下した大項目

- ① 「3. 教育活動」は前回の3.57から3.43へ（前回対比96.08%）
- ② 「7. 学生の受け入れ募集」前回の3.73から3.59へ（前回対比96.25%）
- ③ 「2. 校運営」は前回の3.44から3.35へ（前回対比97.38%）
- ④ 「6. 教育環境」は、前回3.50から3.42へ（前回対比97.71%）

<小項目別の比較>

評価が上昇した小項目

- ① 62) 学習成果が国内外で評価される取り組み 前回の1.87から2.89へ（前回対比151.85%）
- ② 63) 学内で国際交流の適切な体制が整備 前回の1.93から2.89へ（前回対比149.74%）
- ③ 61) 受け入れ・派遣、在籍管理の適切な手続き 前回の1.86から2.57へ（前回対比138.17%）
- ④ 39) 保護者と適切な連携 前回の2.90から3.55へ（前回対比122.41%）
- ⑤ 52) 財務情報公開の体制は整備 前回の3.27から3.72へ（前回対比113.76%）

評価が低下した小項目

- ① 49) 中長期的に学校の財務基盤の安定 前回の3.32から2.90へ（前回対比87.35%）
- ② 20) 授業評価の実施・評価体制 前回の3.86から3.39へ（前回対比87.82%）
- ③ 40) 卒業生への支援体制 前回の3.26から2.88へ（前回対比88.34%）
- ④ 54) 個人情報保護のための対策 前回の3.58から3.19へ（前回対比89.11%）
- ⑤ 41) 社会人のニーズを踏まえた教育環境の整備 前回の3.53から3.15へ（前回対比89.24%）

1) 教育理念・目標

教育理念・目標全体では、前回同様に 3.56 と高評価である。教育理念及び教育目標は 4 年制開始に伴い見直し修正を行った。高度専門看護学科は開設時に 3 つのポリシーを掲げ、設立母体である生長会の理念にそって人間愛を基盤とした看護の実践者を育成すること、今求められる看護の方向を意識しつつ学校の教育の方向を示し、目標設定を行い、評価の視点も改訂させてきている。

項目別では、1)「理念・目的・育成人材像は定められているか」2)「学校における職業教育の特徴の表現」や3)「社会のニーズを踏まえた学校の将来構想を描いているか」はいずれも「適切・やや適切」を併せて 91% で高評価である。看護教育及び助産教育を生長会と地域周辺組織との密接な関連のもと組織一丸となり、約 40 年にわたり実績を積んできた教育をおこない、新たな 4 年教育を国内では先頭を切って開始したことが本校の特徴と言える。教職員全員でその理解のもと、クラス・学年運営や授業における教授方略などに反映できるよう、教員が常に意識していることが伺える。

5)「各学科の教育目標等は業界のニーズに向けて方向づけられているか」は「適切・やや適切」が前回 97.2% から 78.4% へと低下している。これは、カリキュラム改正に伴い、各教員が教育評価に対する意識が高くなり問題点や課題が明確になったことで評価が低くなっていると考えられる。カリキュラム改正に向けて、最新の情勢やニーズに対応する教育目標、地域での活動についての教育内容の充実が求められているため、現在検討中である。

2) 学校運営

学校運営全体は前回の平均 3.44 から 3.35 と低下した。6)「理念・目的に沿った運営方針策定」、7)「事業計画と運営方針の策定」といった柱になるものは各々の平均値が 3.59、3.54 で 87% 以上が「適切・やや適切」で評価が高い。しかし、運営組織・組織整備などの意思決定や業務効率率は平均値が 2.72 と低く、環境整備や業務整理に課題があり情報システムを活用できていない現状がある。

項目別では、8)「運営組織や意思決定機能」、10)「教務財務の組織整備などの意思決定システムの整備」は各々平均値が 3.38、3.30 で「適切・やや適切」が 70% 代と評価が低い。意思決定機能は、規則等において明確化されているが有効に機能しているとは言い難い。業務の自立性や権限移譲に課題があるという意見がある。また、13)「情報システム化に伴う業務の効率化」は前回の平均値 3.03 から 2.07 と低下し「適切・やや適切」が 62.2% と低い。今後、ICT 導入に向け業務内容のスリム化や意思決定の効率化を行い教育の質の向上を図っていく必要がある。

12)「教育に関する情報公開」については平均値 3.52 から 3.57 と上昇し、ホームページの充実、学校評価の公表、ツイッターや動画を活用した教育内容に関する情報の適宜掲示がこの評価に繋がったと考える。

3) 教育活動

教育活動に全体では、前回の平均値 3.57 から 3.43 と低下した。カリキュラム改正へ向けて取り組む中で、各教員がカリキュラム等への課題を見出す機会が増えたことや、新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、授業や実習形態が変更となり対応に迫られたことも関係していると考えられる。

項目別では、17)「教育方法の工夫・開発」は、前回の平均値 3.61 から 3.31 へと低下した。カリキュラムは体系的に編成されているが、部分的な内容の重複や、各分野や領域での到達点の整合には領域内外の調整が必要であるという意見があり、今後は学習内容の整理を行って行きたいと考える。

20)「授業評価の実施評価体制」は、前回の平均値 3.86 から 3.39 と低下した。授業評価を WEB での入力方式に変更したことで回答率の低下は否めない。評価のフィードバックやそれを活用した授業改善が十分行えていない現状がある。

21)「職業に対する外部評価者からの評価の取り入れ」は、前回の平均値 3.70 から 3.59 へと低下している。卒業生や就職先の意見を取り入れていない、卒業後のキャリアを意識した工夫が乏しいという意見があり、今後は、卒業生や臨床、保護者等の評価を取り入れ教育内容の改善に取り組んで行きたい。25)「優

れた教員の提供先の確保マネジメント」は、前回の平均値 3.29 から 3.00 へと低下している。法人内での人事交流や連携は不十分な状況が続いている。組織の活性化を図るためにも、人事交流や連携を積極的に推進することが大きな課題であると考える。

4) 学修成果

学修成果全体では助産学科前回の平均値 3.51 から 3.23 へ低下、高度専門看護学科・看護学科は平均値 3.12 から 3.17 と増加した。

項目別では、28)「就職率の向上」は、助産学科は就職率 100%であるが、年々助産師の就職率が厳しくなってきたことや設置母体への就職が困難になってきていることから、キャリア支援については今後の大きな課題である。看護学科は、法人内外合わせて 100%の就職率である。

31)「社会的活躍・評価の把握」、32)「卒業後のキャリア形成への効果の把握」の2項目は「適切・やや適切」を合わせると 40%以下で、「わからない」も 34%であった。多くの卒業生が法人内に就職しているが、卒業後の教育の成果や成長、将来のキャリアといったと点までの評価はできていない。今後、卒業後の社会的な活躍やキャリア形成への効果について把握するシステムを検討・導入し、キャリア教育の効果について評価していく必要があると考える。

5) 学生支援

学生支援全体では前回の平均値 3.44 から 3.38 へと低下した。「進路や就職、学生相談体制、学生への経済的支援、健康管理体制」の4項目では 90%程度が「適切・やや適切」と評価しているが、「課外活動に対する支援体制」「卒業生への支援体制」「社会人のニーズを踏まえた教育環境」は、60%程度が「適切・やや適切」と評価している。

項目別では 33)「進路・就職の支援体制」は、平均値 3.62 と高い。本校は入学当初より助産学科への進学を希望する学生が多く、在校生対象に助産学科の成果発表の聴講や交流を図り、助産師キャリア育成を図っている。今年度は4名指定校推薦で入学し、助産学科併設の学校の特徴を果たしていると言える。34)「学生相談体制」は平均値 3.70 と高い。スクールカウンセラーや教員による支援を実施している。カウンセリング件数 2020 年で 30 件（2 月迄）学業や人間関係の不安が多い。卒業後や教員の相談にも対応して頂き継続者が多い。35)「経済的支援体制」36)「健康管理体制」は、各々平均値が 3.65、3.65 と高い。今年度は、新型コロナウイルス感染防止のための健康管理体制の強化や経済的支援として希望者への特別修学資金の追加支給を実施した事が評価上昇の要因と考える。37)「課外活動に対する支援」は前回の平均値 3.25 から 2.93 へと低下している。新型コロナ感染拡大のため、活動が殆どできなかつたためである。

39)「保護者との連携」では、前回の平均値 2.90 から 3.55 と大幅に上昇した。これは、保護者会の学年別開催と、新型コロナ感染拡大により、生活環境及び学習環境が変化したことに対しオンライン面談や電話面談を開催し対応した結果と考える。

40)「卒業生への支援体制」は平均値 3.26 から 2.88 へ、41)「社会人のニーズを踏まえた教育環境整備」は平均値 3.53 から 3.15 へと低下している。卒後についてキャリアや状況の把握が不十分であるためである。今後は、就職先の施設と連携をとって、活躍を把握できるシステムづくりが必要である。

6) 教育環境

教育環境全体では前回の 3.50 から 3.42 と低下した。43)「教育に対応できる施設・設備の整備」は、「適切・やや適切」が 94.1%と高いが、45)「防災体制の整備」が前回の 3.51 から 3.27 へと低下している。

項目別では、43)「教育に対応できる施設・設備の整備」は、前回の 3.86 から 3.68 へ低下しているが、コロナ禍においても講堂や多目的室、セミナー、ゼミ室など校内の多様な場所の活用やオンライン授業の導入など、学生の学習活動を支援できる仕組みを整備し教育の質を担保してきた。今後、ICT を活用した教育活動を推進していくに当たり Wifi 環境の整備が課題であると考えられる。

45)「防災体制の整備」は、前回の 3.51 から 3.27 へと低下した。防災に対する体制は整えられつつある

が、災害訓練が非常時に対応できるようなリアルな訓練とは言い難いため改善が必要である。

7) 学生の受入募集

学生受け入れ募集全体では、前回の平均値 3.73 から 3.59 へ低下した。

項目別では、46)「学生の適切な募集活動」は、前回の平均値 3.74 から 3.81 へと上昇している。助産学科・高度専門看護学科共に、コロナ禍で WEB を活用したオープンキャンパスや少人数対面型（個別対応）・ホームページ、ブログ、インスタグラムで特徴ある教育活動や学習の成果を紹介するなど、工夫した学生募集活動を教職員全員で協力して実施したことが、各教員の募集活動への認識が高まり受験生の確保へとつながった。助産学科は、全国的に受験者数が減少している中で、本校は受験者の倍率を上昇させた。今後は、オンライン・オープンキャンパスのシステム化を図っていく予定である。

48)「額納金は妥当なものとなっているか」は、前回の平均値 3.77 から 3.47 へと低下している。新築により設備を整え、今後遠隔授業を継続していくための通信環境の整備や授業方略に ICT を活用していくことを考えると額納金の増額が妥当であるという意見があり、額納金の増額に向けて検討中である。

8) 財務

財務全体は前回の平均値 3.38 から 3.42 へ上昇した。

項目別では 49)「中長期的な学校の財務基盤の安定」が、前回の平均値 3.32 から 2.90 へと低下したのは、コロナ禍で法人全体の収益の低下や学校での遠隔授業・ICT の導入のための予算確保のための経費削減対策を行っている現状から経営状況が厳しいと感じている教員が多いためであると考ええる。

52)「財務公開の体制整備」は、前回の平均値 3.27 から 3.72 へと上昇している。「予算・収支計画の有効妥当性」「会計監査の妥当性」も前回より上昇している。数値化で周知を図り伝えた事で教員のコスト意識が高まり学校の経営へ参画する姿勢が見られてきたためであると考ええる。

9) 法令等の遵守

法令遵守全体は前回の平均値 3.71 から 3.65 へ低下した。

項目別では、53)「法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営」が前回の平均値 3.78 から 3.68 へ、54)「個人情報保護のための対策」が、前回の平均値 3.58 から 3.19 へと低下したのは、遠隔授業が増加する中で、より慎重な個人情報の取り扱いが必要となり、情報リテラシーの知識や認識が学校全体で不足していた。今年度は、情報リテラシーに関する研修会を行い全教員が受講して理解を深めたが、今後も継続して取り組んでいく必要性があると考ええる。

10) 社会貢献・地域貢献

社会貢献・地域貢献全体の評価は前回の平均値 3.12 から 3.09 へと低下した。

項目別では、57)「学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献」は前回の平均値 3.26 から 3.15 へ低下している。教育の貢献は、「大阪府専任教員養成講習会」や（法人研修）の受け入れを実施している。施設の活用は、法人内の活用のみとなっている。今後、健康教育や生涯学習講座等、学校や学生が主体となったプログラム開発や、関連施設や地域の諸施設の連携も含めて、さらに地域や社会に向けて貢献していく必要性を感じていることが伺える。

58)「学生のボランティア活動の奨励・支援」は、前回の平均値 3.42 から 3.37 へと低下しているが、新型コロナウイルス感染症の影響でボランティアの受け入れが難しい状況が影響していると考ええる。今後は、組織的な社会貢献への取り組みを強化していく必要があると考ええる。

11) 国際交流

国際交流は、前回の平均値 1.98 から 2.69 へと前回対比 135.86%上昇している。

4年制教育で「外国語(英語)」・「国際看護学」の単位・時間数の増加や「海外研修」を選択科目として設定

し、学校全体で国際交流の支援に取り組んでいることから教職員の意識が高まってきていると考える。今年度は、コロナ禍で中止となった。今後、コロナ禍などの社会情勢を加味して海外研修・国際交流に向けての内容や方略について再検討を行い体制の整備を図っていくことが課題である。

2021年 3月 15日 作成

学校評価委員会 委員	
学校長	大島 利夫
副学校長	西本 厚栄
助産学科 学科長	秋田 浩子
高度専門看護学科学科長	濱田 眞由美
看護学科学科長	中嶋 和代
助産学科 専任教員	門雀 由加子
高度専門看護学科 教員	上野 妙子
高度専門看護学科 教員	岸田 由紀
事務長	佐治 千恵